

令和４年度 全国高校生体験活動顕彰制度
「地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 吉備」

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付け、地域での実践活動における素地を培う。

2. 事業の概要

（１）期日

第１回 令和４年６月１１日（土）～６月１２日（日）１泊２日

第２回 令和４年６月１８日（土）日帰り

（２）参加者

① 募集対象・人数

全日程に参加できる県内の高校生（募集定員１０名程度）

② 参加者

第１回 ６人

第２回 ６人

（３）連携機関

吉備中央町地域おこし協力隊

農家民宿「みっちゃん」

農家民宿「やまと」

（４）企画・運営のポイント

- ① テスト期間など高校生にとって忙しい時期を避けたり、実践活動を早くから取り掛かれるように早い時期に開催したりするなど、開催時期を工夫した。
- ② 「地域おこし」について様々な角度から取り組む方々を講師として招くことで、様々なアプローチや視点を学ぶことができるようにした。
- ③ 地域活性化のために取り組んでいることや様々な工夫を参加者自らが体験することができるように、農家民宿でのフィールドワークを行った。体験を通じて高校生が考えたアイディアを農家民宿の方に伝え、意見をいただくことで、自分たちが気付かない面にも気づくことができるようにするなど、活動内容を工夫した。
- ④ 企画指導専門職が、２つの農家民宿に同行し、参加者の体験活動や探究活動がスムーズかつ安全に展開できるように支援や助言を行った。
- ⑤ 参加者に無理のない日程を組み、宿泊と日帰りで合宿を行うこととした。日帰りは、参加者の居住地域に近い会場を準備して行うこととした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

①令和4年6月11日(土)～12日(日) 1泊2日

1日目		2日目	
9:15	受付	6:30	起床・洗面
9:30	開講式	7:30	朝食
9:45	アイスブレイク	8:30	フィールドワーク②
10:30	ガイダンス	10:30	講義・演習③「地域課題の探究」
11:15	講義「地域おこし協力隊の 様々な活動」	12:30	昼食(レストラン)
12:15	昼食(レストラン)	13:30	発表①
13:00	フィールドワーク①	14:30	諸連絡
16:00	講義・演習①「地域理解」	14:45	解散
18:00	夕食		
19:00	講義・演習②「課題解決の基礎」		
21:00	入浴		
22:00	就寝		

②令和4年6月18日(土) 日帰り 会場：ピュアリティまきび(岡山市)

3日目	
9:30	受付
9:45	諸連絡
10:00	講義・演習④「行動計画の基礎」
13:00	昼食(参加者持参)
14:00	発表②
15:00	講義・演習⑤ 「実践活動のためのガイダンス」
16:00	閉講式
16:15	解散

(2) 活動の状況

①令和4年6月11日(土)～6月12日(日)



【アイスブレイク】



【講義①「地域おこし協力隊の様々な活動」】



【フールドワーク①】



【フールドワーク①】



【講義・演習①「地域理解」】



【講義・演習②「課題解決の基礎」】



【フィールドワーク②】

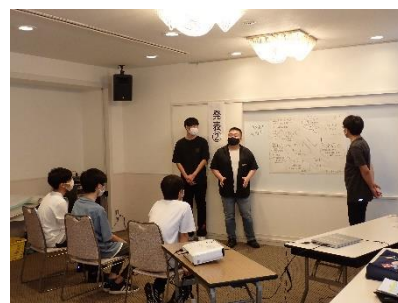


【講義・演習③「地域課題の探究」】

②令和4年6月18日（土）



【講義・演習④「行動計画の基礎」】



【発表】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：92% やや満足：8%

(2) 参加者の声

- ① 地域の方と密接にかかわるという、貴重な体験ができた。
- ② スタッフや講師の方々が親しみやすく、安心して活動に取り組むことができた。
- ③ 自ら主体的に課題を持ち、学ぶことが大切だと改めて理解した。
- ④ テレビや新聞の取材など、メディアへの告知をする機会を活用する大切さがわかった。
- ⑤ 情報を順序や分野ごとに整理すること、仮説をきちんと立てることなど、探究の考え方の基礎を学ぶことができてよかった。
- ⑥ 高校の学習にもこの合宿で学んだことを生かしていきたい。
- ⑦ 目標や課題などを広くとらえず、明確になるように焦点化して考えたり取り組むことが重要だと感じた。

(3) 成果

- ① 2回目の実施となり、町内の地域おこし協力隊や農家民宿などの協力を得られやすく、昨年度からの変更点にも柔軟に対処していただくことができた。
- ② 個別参加型の実施であったため、参加者の学習意欲が高く、こちらの想定以上に熱心に活動に取り組むことができていた。
- ③ 昨年度の反省をもとに活動プログラムを整理したが、無理のない時間設定で、一つ一つの活動にしっかりと時間を配分することができた。
- ④ ファシリテーションの仕方や講義資料の作成、PDCAサイクルの考え方など、本事業に関わることで企画指導専門職のスキルも向上した。

(4) 今後の課題

- ① 個別参加型で開催したが、当初は参加者が集まらず、チラシの発送や直接広報などを行った。周知するための手段や広報の方法など、参加者を集める工夫を考えていく必要がある。
- ② カリキュラムAで行うと、1泊2日では無理がある日程となり、2泊3日になると、参加者の負担が大きい。吉備では1泊2日と日帰り1日で行っているが、それでも参加者の負担が大きいので、高校生が魅力を感じるように成果の発信や内容の工夫をしていく必要がある。

担当：主任企画指導専門職 延原 正章